

## 第4回 神戸ミニ・サッカー大会盛大に終る 1680人の選手が参加……市民のサッカー大会へ

今年の神戸ミニサッカー大会は、1985年ユニバシアード神戸大会前年祭記念行事の一貫として、8月26日ポートアイランド球技場で盛大に行われました。

この大会の参加チームは、社会人8チーム、中学生24チーム（内、神戸市児童福祉施設3チーム、以下「施設」とする）、少年Ⅰ（5、6年）24チーム、少年Ⅱ（5、6年）24チーム（内、施設4チーム）、少年Ⅲ（3、4年）24チーム（内、施設3チーム）、少年Ⅳ（1、2年）12チーム（内、施設1チーム）、少女Ⅰ（5、6年）24チーム（内、施設2チーム）、少女Ⅱ（4年以下）12チーム、障害者8チーム、母親（内、母子寮1チーム）の計168チーム、選手1680名の参加で、1次リーグ、決勝トーナメントを含め、224試合を1日で行う大会でした。

神戸でのミニサッカー大会が今年で4回目を数えることで、ミニサッカーのルールの普及とあわせて底辺が広がり、それぞれの試合が白熱したものとなりました。特に神戸市の児童福祉施設の中学生チーム、少年3チームが決勝トーナメントに出場しました。これは過去3回になかった特筆すべきことだと思います。このことは、福祉施設の子供もサッカーに興味をもち、日頃から練習されていることがわかります。

また、障害者チームの応援にかけつけられたある父兄から、「この大会は、どこ主催で、何名ぐらいこのグラウンドに来ていますか」と尋ねられました。「神戸市サッカー協会が主催し、後援、共賛していただいている会社また多くの方々の協力で行っています。今日

は、選手のみで1680名です」と答えると、大変驚かれていた様子でした。社会人が、中学生が、小学生が、障害者が、母親と一緒に、なお無心にボールをけり、追いかける姿に感動されていました。「来年も子供と一緒に参加しますからね」という言葉を残してグラウンドをあとにされました。私たち実行委員を始め、関係者の心がこの一言でやすぐ思いでした。良き一日を過しました。（高見）

各部の結果は、次のとおりです。  
〈社会人〉決勝 リビア 3-0 大協  
〈中学生〉決勝 友が丘 4-0 灘  
〈少年Ⅰ〉決勝 福住A 0-0 多井畑A  
トス（4-2）  
〈少年Ⅱ〉決勝 新多聞 2-0 桜の宮B  
〈少年Ⅲ〉決勝 高倉台E 2-1 みさきC  
〈少年Ⅳ〉決勝 みさきE 2-0 多井畑F  
〈少女Ⅰ〉決勝 高倉台A 2-0 神陵台  
〈少女Ⅱ〉決勝 多井畑 0-0 北五葉B  
トス（5-2）

〈障害者〉決勝  
あけぼの学園 トス1-1 神戸学園  
〈母親〉決勝 多井畑 2-0 ひより台  
キャロット フレンズA

### ミニサッカー大会に参加して

上杉 修

サッカー大会がちかくなって、ぼくは夜あんまりねむれなかったで、必死でねむりました。

とうとう8月26日がきて、これだったら試合で一回でもシュートを入れてやろうと思い

ました。試合がはじまりました。緊張して一回目シュートが入りませんでした。森山君が前にボールをばんとけたのをぼくがおもいきりけってシュートが入りました。

二試合目はぼくがボールをとってパスをして井神君がはじきましたが、あとでぼくがシュートを決めました。井神君に「あせつとる」といいました。

後半も山下さんがシュートを決め、ぼくはとってもうれしくて、これで勝ったと思いました。でも、むこうのチームもすごく強かったです。

第三試合は緊張しましたが、チームワークでいっしょうけんめいがんばりました。

シュートを失敗して森山君にあせるなどいわれました。そこで、あせらずにシュートを決めました。第三試合に勝つてうれしかった。これやったら優勝をねえと言われました。

第四試合の前に相手をよく見とけといわれました。ここが強いといわれました。試合がはじまって、先生の言ったように強かったけど必死でたたかいました。

さいごに宇城さんがシュートを決めました。後半に同点になりました。

ぼくらはあんまり負けなかったで優勝しました。とてもうれしかったです。

### ミニサッカー大会に参加して

佐々木 真悟

ぼくは浅川先生から「後半はキーパーをしなさい」と言われてびっくりした。

キーパーをするのは初めてなので、きんちょうしました。みかたがききに一点いれてくれたので気がらくになりました。

相手チームのシュートは四回あったけどはいらず、みかたが四点をいれて勝つことができました。あつくて、しんどかったけど、たのしかった。

自分が実際に試合を経験できたということが一番大きな収穫であった。自分自身競技経験がないので、試合をしているときの心理状態がはっきり分からなかったのである。試合中は精神的に大変な重圧を受ける。そのため周囲が見えなくなってしまう、ボールがくると本当に迷ってしまう。そのときに味方が声をかけてくれると本当に有難い。声を出して呼び合う事の大切さが体験として分かった。また、自分に技術がないので、全く余裕がないのである。なるべくボールが来ないようにという気持ちになりがちになる。技術があれば自信が付き、余裕を持って試合に臨むことができ、周囲もよく見えてくるであろう。そうすればますますサッカーが楽しくなるだろう。できるだけ高い技術を身に付けることの必要性がしみじみと感じられた。

この経験を普段の子供への指導に十分役立てていきたいと思う。また、自分自身の技術でもできる限り高めしていきたい。

今後もこのような講習会に進んで参加していこうと思う。

### 神戸市社会人運営会議予定 次回 12月20日(木)

1月17日、2月21日、  
3月14日、3月22日、いずれも18時30分  
から王子登山研究所。社会人リーグに参加している各チームの代表者が必ず一人出席して下さい。

### 個人購読のご案内

弊紙を個人で購読ご希望の方は、1年分として70円切手12枚を同封のうえ、次のところへお申し込みください。

〒650 神戸市中央区八幡通2-1-10  
三木記念神戸市立スポーツ会館内  
神戸市サッカー協会 ☎078-232-0753

なお、数人分まとめて申し込まれる場合は割引がありますのでご連絡ください。

## 中部日本少年指導者講習会を開催

### ＊指導者の熱意あふれた5日間＊

日本協会主催の中部日本少年サッカー指導者講習会は、8月19日から23日まで、15名の受講生で滝川第2高校で実施された。

参加者は富山、岐阜など県外から6名、県内から9名で、日頃は少年達とともに汗を流している現役のコーチ。それぞれにもっとよい指導法を求める熱意にあふれ、実技と講義に活発な5日間を過ごした。

内容は実技、講義、指導実習、試合、審判法、医学などで、朝6時の散歩から始まり深夜に及んだレポート作成など受講生にとってはかなりハードな日程だった。しかし、閉講式を迎えやりとげた顔には満足感とこれからのやる気が満ちていた。これからの活躍に期待したい。（黒田）

【講義】(1)サッカー全体について  
(2)少年サッカーの指導について  
(3)戦術について  
(4)ゲームの指導について  
(5)スポーツ医学  
(6)審判法

【実技】(1)ボールコントロール

(2)試合

(3)審判法

(4)指導実習

【講師】黒田和生（JFA上級コーチ・滝川学園）蔵力夫（県協会審判部）田中寿一（兵庫医大）

【事務局】伊窪吉和、宮本亮、柴田寛、三野亘（神戸市協会）

【修了者】倉橋昌央（富山）小林紀之（福井）谷口邦彦（岐阜）清水健司（三重）辻寿明（滋賀）中谷求（大阪）浜田明彦（神戸）野木真一（西宮）堀克之（尼崎）畠中真（神戸）玉塚潤（芦屋）岡本忠景（西宮）高橋昌之（芦屋）拵隆保（明石）竹中正明（神戸）

### “講習会を終えて”

北五葉S C 浜田明彦

#### 有宏スポーツ

東灘区御影本町4丁目11-9 ☎078(821)8449  
阪神御影駅南側西へ30m

#### 塩谷スポーツ

兵庫区大開通7丁目5 ☎078(576)0870  
バンドウ化学南

#### MEN'S SHOP MAC

三宮センター街店 ☎078(391)0895  
プレザージュ・トーアロード店 ☎078(391)0896  
ドルチェ・マック・センター街店 ☎078(332)0141

#### ヤノ運動用品

本店 中央区三宮町3-8-1 ☎078(391)1121  
ファイブ店 中央区三宮町2-7-8 ☎078(331)4578  
六甲、長田、白川台、名谷、西明石、高砂、姫路、岡山

#### スメラ

湊川店 湊川プラザ2階 ☎078(511)2234  
鈴蘭台店 ダイエー西側 ☎078(592)0470

#### 加茂トアロード店

中央区三宮町3-8-8 ☎078(392)0234  
国鉄元町駅南側東へ100m

#### マヤスポーツハウス

灘区赤坂通7丁目5-14 ☎078(861)8143  
(861)4146

#### ワールドスポーツ

東灘区深江北町4丁目7-3 ☎078(453)2186  
阪神深江駅北側信号西

1984 8月号

発行所 神戸市サッカー協会  
神戸市中央区八幡通2-1-10  
三木記念神戸市立スポーツ会館内  
〒651 ☎(078)232-0753  
発行人および編集人 一北 四郎  
神戸市灘区上野通6丁目3-1 2  
〒657 ☎(078)861-3100

毎月1回10日発行 購読料1部50円



ユ・ハイム

### 第14回ジュニア・サッカー サマー・フェスティバル

西日本最大の少年サッカー大会となった第14回神戸ジュニア・サマー・フェスティバルは、今年、1985年ユニバシアード神戸大会前年祭協賛事業として、8月25日から27日まで、神戸市内のべ9会場を使い、県外から34チーム、そして兵庫県中学トレセン、神戸市中3選抜、神戸S C（加古川）と神戸F Cの各学年チーム、計44チームが参加して5部門に分かれて行われた。

その結果、中3以下の部では、神戸F CジュニアAが、主催クラブの意地を見せ、3年連続3度目の優勝を果たし、大会に華をそえた。また、中1以下の部と小5以下の部では浜松J F Cが、小6以下の部では広島大河F Cが、小4以下の部では清水F Cがそれぞれ優勝し、あいかわらず今年もサッカー王国の強さを見せつけた。

#### 【中3以下の部】

A組の神戸F C、B組の神戸市中3選抜、紫光クラブ、C組の大河F C、D組の城内F Cがハイレベルなサッカーを展開した。準決勝で神戸F CジュニアAが、広島の名門大河F Cを3-2で下し、一方、城内は地元神戸市選抜を4-2で破り、それぞれ決勝に進出した。

決勝は神戸F C、城内まったく互格に戦い、延長も0-0のままタイム・アップ、P K戦となった。ここで神戸F Cは主将のG K朝見がファインプレーを連続、2本のシュートを止めて優勝をもたらした。

今大会、神戸F Cはエースの藤田を全日本ジュニアユース代表の試合で欠き、苦戦が予想されたが、G K朝見、大型B Kの清原を中心にした忠実な守備陣と、中盤からゴール前に流れるようなパス・ワークで他チームを圧倒、6試合で20得点を上げる攻撃陣の活躍で安定した戦いぶりを見せた。

#### 【中1以下の部】

浜松、愛知、紫光が他チームより頭抜けたレベルで戦った。中でも浜松は、小学生時代から清水F Cとせり合って育ってきたチームとあってスケールの大きさを感じさせた。愛知、紫光も局面では好プレーを見せたが、浜松の総合力にねじふせられた。

#### 【小6以下の部】

全日本のゲームメーカー木村和司を生んだ広島大河F Cが、決勝で交野をP K戦で破り、初優勝を飾った。大河は一人一人がボールが持てるだけでなく、ルック・アップが早く、球離れが早い。個人の判断力の良さ、ボール



▲中3以下の部で3年連覇を果たした神戸F C Jr-A



### 神戸F C ジュニアA 3年連続優勝 中3以下の部



▲延長でも得点なく0-0で終了、P K戦で神戸F CジュニアAが優勝した。

#### 【中3以下の部】——参加16チーム 〈決勝トーナメント〉

神戸F C  
高槻松原F C  
京都紫光F C  
広島大河F C  
神戸市選抜  
枚方F C  
交野F C  
静岡城内F C

#### 【小6以下の部】——参加8チーム 〈決勝トーナメント〉

広島大河F C  
熊本教室  
交野F C  
上野F C

#### 【小5以下の部】——参加8チーム 〈決勝トーナメント〉

清水F C  
藤枝F C  
神戸F C  
浜松J F C

#### 【小4以下の部】——参加4チーム

①清水F C (3勝) ②浜松J F C (2勝1敗)  
③神戸F C (1勝2敗) ④刈谷S C (3敗)  
(注) 1次リーグ、下位トーナメントの記録は省略しました。

#### 【中1以下の部】——参加8チーム 〈決勝トーナメント〉

愛知F C  
高槻松原F C  
京都紫光S C  
浜松J F C

コントロールの良さは全国でもトップレベルと思えた。

#### 【小5以下の部】

ベスト4に残ったのは神戸F C以外はすべて静岡勢と、来年の全日本少年大会の静岡県予選を見るようだった。5年生にしては、ボールに寄る速さ、攻守の切り替えの速さはさすがに速く、静岡勢のレベルの高さを示した。

#### 【小4以下の部】

清水F C、浜松J F C、刈谷S S、神戸F

### 神戸市中3選抜も大活躍！

大会を振り返って 村松 明雄

各校より監督推薦という形で、約60名の選手でスタートした選抜チームである。二度の選考会により30名にしぼり、サマーフェスティバルに臨んだ。

選手にディフェンスでは、相手の攻撃に時間を分けさせて数的優位を作ってから勝負をするなどの守りの原則を知らせた。また、オフenseでは、ウィング攻撃、個人技での相手ディフェンスのくずし、味方を使った楽なボール回しを理解させた。そして、全体とし

ては、時間帯を意識したゲーム展開を強調してゲームをさせた。

初めのうちは、ギクシャクしてなかなかうまくはいかなかったのだが、試合を追うごとに比較的レベルの高いサッカーが出来るようになった。個人としては、すばらしいものを持っているのだが各中学校ではあまり戦術的なことを指導されていないようで、この選抜チームに選ばれた選手たちにとっては、非常に有意義な大会であったと思われる。

今後も、選抜チームの運営を確かにし、神戸のサッカーが強くなるよう努力したい。

(村松)



## 第36回兵庫県 御原15年ぶりの優勝 中学校大会

第36回兵庫県中学校大会は、7月30日、31日の両日竜野市中川原公園グラウンドで行われ、決勝は御原と竜野西の対戦となった。結果は終始優勢に試合を進めた御原が竜野西を下し、15年ぶりに優勝を果たした。

尚、決勝に進出した御原と竜野西は近畿大会に出場することになった。

▶決勝（7月31日、竜野市中川原公園）

御原 2 { 1-1 / 1-0 } 1 竜野西

### ＝国体少年の部 近畿地区予選＝

#### 和歌山を下し、

#### 本大会へ出場

春休みから選抜メンバーを組織し、例年になくチーム作りを早く始めました。そして、数多い練習試合の中から個人の能力とチームの特徴を分析し、何ができるのか、何ができないのか、長所は何か、弱点は何かを早く見きわめることにより、より強いチーム作りを心がけてきました。

そして、チームとしては、まずプレッシャーをかけて相手に自由にやらせないことにより相手のリズムを崩し、それから自分達のサッカーをするということを原則とし、又攻撃においてはゴールへの意欲を全員がもつこと守備においては最後の速さとカバーリングを主な課題として最後の調整をしました。

選抜スタート時の精神的、肉体的にメロメロの状態に比べ、8月に入ってからやや自信とチームとしてのまとまりを取り戻し、ミニ国体はチームの状態がやや上昇ムードの中で予選を迎えることができました。

▶第1戦（8月24日、水口市スポーツの森）

兵庫 0 { 0-2 / 0-2 } 4 京都

【評】立ち上がりから兵庫は積極的に攻撃し

15分間に3回の決定的チャンスを作ったが、シュートミスから得点できない。一方、京都は徐々にリズムを取り戻し、兵庫の右サイドのプレッシャー不足から簡単にロビングを上げ、中央からブッシュされて先制を許した。その後、30メートルのロングシュートを相手BKに決められ前半を終了した。

後半も兵庫は再三のチャンスを作るが、何としてもゴールを割ることができない。それに反し、京都は兵庫守備陣のミスから2点を加え、試合を決定づけた。

▶第2戦（8月25日、水口市スポーツの森）

兵庫 6 { 3-0 / 3-0 } 0 和歌山

【評】前半から兵庫の動きはシャープで、和歌山DFは浮き足立ってしまい、立ち上がり間もなく相手DFのバックパスを鴻野がカットして寺西に渡し、簡単に得点。その後も兵庫の圧倒的なペースで寺西のハットトリック、斎藤、小丸の三原コンビからの得点などで和歌山を寄せつけず兵庫の完勝に終わった。

この2試合を通じて、相手ゴール前でのシュートに対する意欲、集中力とアイデア、自陣ゴール前での相手へのプレッシャーと体を投げ出してでも止めようという闘争心というものが勝利を得るための重要なポイントであることが痛感しました。今後はこのポイントを課題として、全国大会を一戦一戦大切に戦っていきたいと思っています。（森田）

## 兵庫県トレセンにご協力下さい

### 1. トレーニングセンターの目的

トレーニングセンター（以下トレセン）は優秀選手育成強化のための長期総合強化計画のことで、少年サッカーの普及・充実とレベルアップを原動力として、それを日本サッカーの強化へと結びつけていく長期的展望にたった強化システムのことを指します。

### 2. 兵庫トレセンの現状

中央の行事としては、中1・2年対象（ジュニア）の全日本選抜中学生大会が3月に、中3・高1対象（ユース）のユース地域選抜研修会が11月に行われています。兵庫トレセンとしては上記の大会に選手を送り出すとともに8月中旬にジュニア・ユースとも関西トレセンに宿泊研修、8月末に中1、2、3年で西日本ジュニアサマーフェスティバルに参加、1月初旬に関西中学生選抜大会に参加しています。現在の活動の状況は上記の大会への参加、それに向けての集中的な強化練習にとどまっております、定期的・継続的な活動はできていないのが現状です。

### 3. 今後の課題

現在、ジュニア・ユースという分類で、中1から中3までを対象とした県中学トレセンが活動しています。

今後は、県トレセンを頂点として各支部ごとにもトレセン（現在実施している支部もいくつかありますが）を開設してもらい、各支部からの優秀な選手を県トレセンに推薦してもらえたらと思っています。また、各支部トレセンの対抗試合を行い、その中から県トレセンにピックアップするという方法がとられればとも思っています。

現在は県トレセンを担当者一人で、選手の

ゴール前でもつれたところを西田が懸命に押し込み先取点をあげた。この失点で逆に御原も硬さがはぐれ、ボールがつながり出した。前半終了1分前、竜野ゴール前で竜野DFがハンドの反則を犯し、御原がPKを得、原が落ちて着いて決めた御原に追い着いた。

後半に入っても御原は中盤を支配し、得意のウイング攻撃から竜野ゴールをねらう。後半6分やあせりが出だした竜野DFが再びゴール前でハンドの反則。このPKも御原の原が落ちて着いて決めた、御原が逆転に成功した。

その後も御原は試合を優勢に進め、竜野にチャンスらしいチャンスを与えないまま2対1で試合を終了した。（岡本）

### 第36回兵庫県中学校大会結果

|          |      |   |   |  |  |
|----------|------|---|---|--|--|
| 飾磨西中（中播） | PK-2 | 1 |   |  |  |
| 星和台中（神戸） |      | 1 |   |  |  |
| 龍野西中（西播） |      | 2 | 0 |  |  |
| 豊岡南中（但馬） |      | 1 |   |  |  |
| 高丘中（東播）  |      | 8 | 1 |  |  |
| 三田学園（丹有） |      | 0 |   |  |  |
| 御原中（淡路）  |      | 3 | 2 |  |  |
| 立花中（阪神）  |      | 1 |   |  |  |

## 御原 準決勝で惜敗

### 近畿中学校大会姫路で開催

59年度近畿中学校総合体育大会サッカーの部は、8月8日、9日の両日、姫路新日鉄広畑夢前グラウンドに各府県予選を勝ち抜いた12チームが参加して行われた。

大会はまず3チームずつ4組みに分かれて1次リーグを戦い、各組の1位が決勝トーナメントを争うという方法で行われた。その結果、滋賀県代表の甲賀と大阪代表の阿武野が決勝で戦い、延長でも相方譲らず0-0で優勝を分けた。

兵庫県代表の御原は1次リーグ1位で決勝トーナメントに進出したが、準決勝で阿武野に1-2で敗れた。

なお、近畿からは、阿武野、甲賀、榛原（奈良）、網野（京都）、岡崎（開催地）の6校が全国大会に出場した。

〈1次リーグ結果〉

A組：①甲賀、②榛原、③楠見（和歌山）  
B組：①福泉、②龍野西、③岡崎  
C組：①阿武野、②網野、③西脇（和歌山）  
D組：①御原、②水口（滋賀）、③新庄（奈良）

〈決勝トーナメント結果〉  
甲賀（滋賀） 1  
福泉（大阪） 0  
阿武野（大阪） 2  
御原（兵庫） 1

▶決勝（8月9日、新日鉄夢前）

甲賀（滋賀） 0 { 0-0 / 0-0 } 0 阿武野（大阪）

【評】決勝は守備の安定した甲賀と、個人技のしっかりした阿武野との試合になった。炎天火、両チームの選手はよく動いたが、決定的なチャンスがつくれず、延長の末引き分けで両校優勝となった。今大会は両日共うだるような暑さの中で好ゲームが展開されたが、兵庫代表の御原が準決勝で善戦の末悔しくも敗れたのが残念であった。（柳田）



株式会社 モルテン  
広島 / 東京 / 大阪 / 名古屋 / 福岡 / 札幌

## 神戸市——リガ市、友好都市提携10周年記念 神戸市選抜チーム リガ市を親善訪問

神戸市・リガ市友好提携10周年記念にあたり、リガ市より招待を受け、西沢倫雄神戸市教育委員会体育保健課長を団長とした、私達神戸市選抜サッカー団一行17名は、8月5日、午後1時に成田空港を出発、モスクワ経由でリガ空港に到着したのが現地時間の8月6日午前0時30分であった。

この日一日の行程は、早朝6時40分に伊丹空港のターミナルホテルを出発し、リガ市のラトビアホテルに到着し午前2時に旅装を解くまでに時差の5時間を加算すれば24時間を超える長旅であった。

8月6日(月)  
午前中、リガ市役所を表敬訪問。  
午後から今回対戦するダウガワチームのホームグラウンド、ダウガワ・セントラル・スタジアムにて練習、久し振りのボールの感触を味わう。長旅の疲れと時差の関係もあり、からだが重そうである。

8月7日(火)  
午前中、市内見学、スポーツ会館、野外展示博物館を見る。スポーツ会館はリガ最大の体育館で、先日女子バレーボール4か国対抗戦にも会場となった立派な施設で、主にバレーボール、バスケットボール、アイスホッケーの練習が行われていた。

昼食後は休息、16時よりミーティングを行いゲームの作戦をねる。

試合開始は18時30分、簡単なセレモニーとベナント交換の後、キックオフ。前半はダウガワの猛攻をGK福山の活躍とバックスの健闘で守り切って0-0で終了。ダウガワの応援に集った3千人以上の観衆が福山のファインプレーに大きな拍手をし、ダウガワの凡プレーにブーイングと大変盛り上った。

しかし、後半に入ってから2分にちょっとしたミスから一点を取られ、あせって攻め上がった背後をカウンターの速攻でやられ、立続けの3失点。15分にはPKまで取られて5-0の大差となる。その後もさらに3点を取られてタイムアップ時には8-0の大敗となった。

我々の体力では前半の大健闘がやっとと言うことであろうか。ダウガワのプレーはスピードとパワーに秀れていたがシュート力とボ

ール・コントロールはそれほどでもなかった。

8月8日(水)  
午前中、ダウガワスタジアムにて練習。

第2戦には何としてもぶざまなゲームをしたくないと皆んな気合いの入った練習をやった。時差や色々の悪条件にも適応できつつあり。午後は神戸デー写真展、ソ日協会リガ支部発足式典に参列後、リガ市招待パーティーに出席。この日、安好収入役、神戸市会議員団、市民グループとも合流。

8月9日(木)  
午前中、第二次大戦中のナチスドイツのラトビア侵入の際、多数のラトビア人、ロシア人、ユダヤ人が捕えられ、虐殺されたサルスビルスメモリアルを訪れ献花、見学。  
午後は休息の後ミーティング。

18時30分、キックオフにてダウガワ・ユースと対戦。前半2点を失うも内容は第1戦よりも良好。後半に入って安好収入役と神戸市議団が多忙なスケジュールの中、会議を中断してまで応援に駆けつけて下さった。その直後に熱心な声援を受けて1点を取り2-1とした。その後1点を失い3-1で終了。試合後ロッカールームにて両チームの選手が集って記念品やユニホームの交換をしたり、なごやかな一時を持てた。

8月10日(金)  
午前中、ウルマラ海岸にて海水浴を楽しむゲームは2度とも敗れたが、試合を終えて選手一同気分が楽になったようで童心に帰って砂浜でたわむれていた。

午後は自由時間とし、帰国を前にみやげを買ったり市内見物に出かけたり、町の様子にもなれ、のんびりとした時間をすごした。  
夜はさよならパーティーが開かれ、今回の訪問で大変お世話になったヤシコ助役、パウデイス体育協会長、ダウガワのコーチと役員、ラジオテクニカ（バレーボール）のバルウシコーチ（二度来神）など多数の関係者が集って下さり、今後も変らぬ友情をもちたいと心から思った。

8月11日(土)

午前中、リガ市スポーツデーの催しを見学市民が自由に参加できるコーナーが数々もう

けられていて選手団のものもボールリフティング競争やアイスホッケーゲームなどに気軽に参加し楽しんでた。

16時30分、ラトビアホテルを出発リガ空港へ。いよいよリガ市を後にすることになった。リガーモスクワ間は1時間30分の飛行。シェレメチェボ空港に到着。しかし、迎いのバスがなかなか来ず30分以上も立ちん坊、やっとバスが来て、シェレメチェボホテルに入ったが、リガ市の快適な生活にくらべ、ホテルのサービスも設備もひどいものでがっかりしたり、不安も感じたがリガとモスクワの連絡のトラブルがあったらしく、リガから一緒に来た人々も恐縮していた。

8月12日(日)  
ソ連滞在の最後一日をモスクワ見物で過ごす。赤の広場、レーニン廟を見学する。レーニンの遺体が完全な状態で保存され展示されていたのに驚く。その後免税店のショッピングとオリンピック記念体育館の見学、最後はソビエツキーレストランでの昼食。

ソビエツキーレストランでのロシア料理はまさに本物のロシア料理をたべさせてもらった感じがした。

オリンピック記念体育館は80年のモスクワオリンピックのために建てられたソ連自慢の建物らしい。4万人以上の観客席、フロアの広さは正規のサッカーコートがとれて、冬には室内で正式ゲームができるのには驚いた。この日は全面スケートリンクとなっていた。もう一つの特徴は、体育館を中央で2分割し同時に2つの競技を行えることである。これも実に合理的な考えだと感心した。

16時、シェレメチェボ空港に到着。出国手続きを終えていよいよソ連アエロフロート機に搭乗。19時にソ連を後に成田空港へ向って離陸、時差を5時間もどして眠る。

8月13日(月)  
11時間の飛行後、成田空港に9時30分に着陸、入国手続と通関を終って10時30分日本の土を踏む。9日間のソ連遠征を終ってほんとにする。折しもロサンゼルス・オリンピックのクライマックス、男子マラソンのテレビ中継の放映中、ソ連での8日間はオリンピックの話題でもなかっただけに、竜宮城から帰った浦島太郎の心境であった。

神戸までは京成電車、新幹線を乗り継いで17時40分新神戸駅着、市の関係者や家族の迎えを前にして解団し、帰路についた。

（市協会理事長 一北四郎）

## 平木隆三氏を招き指導者講習会

### 兵庫の弱点をずばり指摘

59年度中高等学校指導者養成講習会は60数名が参加し、8月10日実施されました。東京より平木隆三コーチ（日本協会技術委員長）を招き、貴重な指導助言をいただきました。これはユニバーシアード神戸大会準備事業として指導者養成コースが設けられたもので、来年度も計画されるようであれば今年とは違った企画で実施したいと考えています。

今回は日常生徒を指導する際にもっと高い水準の知識を持つべきではないかと思ひ、その辺をテーマに、日本のトップレベルのコ

チがゲーム中どのような助言を選手達に与えているのか。選手への指示はいかにあるべきか。などゲーム中のコントロールの問題に的をしばって見たわけです。

そこで実際に高校生レベルのゲームを見ながら評価やゲーム分析をしていただいたのですが、受講者の中には熱心に質問をしてもらった方もあったようです。平木氏はユースチームの中国遠征に同行され、帰国されたばかりで、中高生指導者には大変参考になるお話しをして下さいました。

技術的には特にディフェンス面で私達が日常の指導に際し再確認しなければならないような問題点に触れておられましたし、選手のコンディショニングの問題は我々が日頃ももっと、もっと心を向けて指導する必要性を思い知らされる重要なテーマにふれておられたような気がします。

平木氏は全身エネルギーの固りのようなファイトマンですが、熱のこもったお話しの中にも平木氏の人間性がにじみ出ていて本当に身のある一日講習が出来たと思います。

来年度はできれば実技で汗を流しながら指導者の資質向上に頑張りたいと考えている次第です。

兵庫県サッカー協会 佃 幹夫



マーカム33  
標準小売価格 ¥8,000

## 明日の栄光を勝ちとれ!

# markam

80年代をリードする  
サッカーウェア



サッカーの基本プレーを徹底的に  
追求し、機能性を第一に考えた  
サッカーシューズ“マーカムシリーズ”



MONTBLANC. リアル・スポーツの追求

## モンブラン株式会社

神戸・東京・福岡